



CHAPTER 2

ユーティリティのインストール

この章は、次の内容で構成されています。

- [インストールの概要](#)
- [Microsoft Windows システムへのユーティリティのインストール](#)
- [Linux サーバへのユーティリティのインストール](#)
- [ユーティリティの起動](#)

インストールの概要

SEL Viewer ユーティリティは、Linux および Windows サーバおよびシステムにインストールできます。ユーティリティをインストールする前に、IPMI ドライバが実行されており、サービスがイネーブルであることを確認します。IPMI サービスが実行されていない場合、ユーティリティがオフライン モードで実行されます。

この項では、次の項目について説明します。

- [Microsoft Windows システムへのユーティリティのインストール](#)
- [Linux サーバへのユーティリティのインストール](#)

Microsoft Windows システムへのユーティリティのインストール

SCU CD からの SEL Viewer ユーティリティをインストールできます。

Windows 2003 および 2008 にユーティリティをインストールするには、次の手順に従います。

-
- ステップ 1** Windows オペレーティング システムを起動します。
 - ステップ 2** IPMI ドライバがインストールされており、IPMI サービスがイネーブルであることを確認します。
Microsoft Windows 2008 R2 システムでは、デフォルトで IPMI ドライバがインストールされています。Microsoft Windows 2003 システムの場合、IPMI ドライバをインストールして、サービスをイネーブルにする必要があります。
 - ステップ 3** IPMI ドライバをインストールするには、[Control Panel] > [Add/Remove Program] > [Add/Remove Windows Components] にアクセスします。

- ステップ 4** [Windows Components Wizard] で、[Management and Monitoring Tools] を選択して、[Next] をクリックします。
- ツールのインストールを完了してください。IPMI ドライバがインストールされた後で、IPMI サービスを起動する必要があります。
- ステップ 5** コマンドプロンプト ウィンドウを開き、次の内容を入力します。
- ```
rundll32 ipmissetp,RemoveTheDevice
rundll32 ipmissetp,AddTheDevice
```
- ステップ 6** CD ドライブに SCU CD を挿入します。
- CD の自動実行コンポーネントが開始します。
- ステップ 7** [SEL Viewer] をクリックして、SEL Viewer ユーティリティのインストールを開始します。
- インストール ウィザードが起動します。
- ステップ 8** エンドユーザ ライセンス契約書に同意し、[Next] をクリックして、SEL Viewer ユーティリティをインストールします。



(注) 次の手順に従って、Windows XP オペレーティング システムに SEL Viewer ユーティリティをインストールできます。ただし、このオペレーティング システムは、SEL Viewer ユーティリティのオフライン モードだけをサポートします。オフライン モードでのユーティリティの使用の詳細については、[オンラインおよびオフライン モードの使用](#)を参照してください。

## Linux サーバへのユーティリティのインストール

Linux サーバに SEL Viewer ユーティリティをインストールするには、CD Cisco UCS SCU 2.0(1) にアクセスし、手動で .rpm ファイルをインストールする必要があります。

Linux システムにユーティリティをインストールするには、次の手順に従います。

- ステップ 1** Linux オペレーティング システムを移動し、root ユーザとしてログインします。
- ステップ 2** IPMI ドライバがインストールされており、IPMI サービスがイネーブルであることを確認します。
- ステップ 3** サービスが実行されていない場合は、次のコマンドを入力して IPMI サービスを起動します。
- ```
service ipmi start
```
- ステップ 4** Cisco UCS SCU 2.0(1) CD を挿入するか、CD の .rpm ファイルを参照します。
- .rpm ファイルは、[Selviewer] > [Linux] フォルダで入手できます。
- ステップ 5** Red Hat Enterprise Linux サーバにユーティリティをインストールするには、次のコマンドを実行します。
- ```
rpm -Uhv selview-2.0-0.i386.rpm
```
- ステップ 6** SUSE Linux Enterprise サーバにユーティリティをインストールするには、次のコマンドを実行します。
- ```
rpm -Uhv selview-2.0-0.i586.rpm
```
- このコマンドは、ユーティリティのインストールを開始します。

ユーティリティの起動

このユーティリティを開くには、次の手順に従います。

-
- ステップ 1** IPMI ドライバがイネーブルであることを確認します。
- このドライバは、ユーティリティと CIMC 間の接続を確立するのに必要です。このサービスがイネーブルにされていない場合、ユーティリティはオフライン モードで実行されます。
- ステップ 2** ブラウザを開き、`http://localhost:9099/index.html` または `http://<ip_address_of_host>:9099/index.html` を入力します。
- SEL Viewer ユーティリティが開きます。
-

デフォルトでは、ユーティリティを起動するポート番号が 9099 に設定されています。`selview.cfg` ファイルを使用してこのポート番号を変更できます。ポート番号を変更する場合、SEL Viewer サービスを再起動します。

Windows システムで SEL Viewer サービスを再起動するには、次の手順に従います。

-
- ステップ 1** [Start] > [Run] の順にクリックします。
- ステップ 2** `services.msc` と入力します。
- [Services] ウィンドウが開きます。
- ステップ 3** `selview` を選択して右クリックします。
- ステップ 4** [Restart] をクリックします。
- SEL Viewer サービスが起動します。
-

Linux サーバで SEL Viewer サービスを再起動するには、次のコマンドを実行します。

service selviewd restart

SEL Viewer サービスが起動します。

ユーティリティの削除

ここでは、次の内容について説明します。

- [Microsoft Windows システムからのユーティリティの削除](#)
- [Linux サーバからのユーティリティの削除](#)

Microsoft Windows システムからのユーティリティの削除

Windows システムからユーティリティを削除するには、次の手順に従います。

-
- ステップ 1** [Start] > [All Programs] の順にクリックします。
- ステップ 2** [Cisco] > [Unified Computing System] > [Uninstall Cisco SEL Viewer] の順にクリックします。

SEL Viewer ユーティリティがシステムから削除されます。

Linux サーバからのユーティリティの削除

次のコマンドを実行して、Linux サーバからユーティリティを削除します。

```
rpm -e selview
```